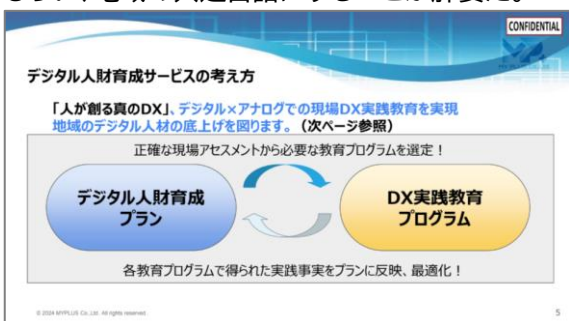


マイプラス株式会社は、地域のDX推進に取り組む企業です。デジタル人財が不足するなかで、IT企業を誘致しても就職する人財が足りない、地方にIT企業が少ないことが大きな課題になっています。たとえ就職先があっても採用が進まない、自治体内で情シスが旗を振っても庁内で進展が見られないなど、デジタル人財という観点で多くの悩みがあるようです。こういった課題を解決する施策について、同社 執行役員 延岡地域DXセンター長の富重 聡氏に具体的な事例を交えながら解説していただきました。

point ① 地元企業・自治体と求職者を分け同時並行で実践的DX人財を育成

マイプラス株式会社は、DX人財の育成に注力しているが、セミナーや講義、デジタルツールなどにフォーカスするのではなく、現場において本当に実践力のあるDX人財やリーダーの育成に注力し、地域企業の底上げを支援しているところだ。これを喩えて表現すると「魚を与えるのではなく、釣り方を教える」ということになる。また、地域企業をDX化するにあたり、さまざまな地元のコミュニティや、高校、大学、企業などの各種レイヤーにデジタル教育を同時に投入することで、DXの知識を身に付けてもらい、地域の共通言語にすることが肝要だ。

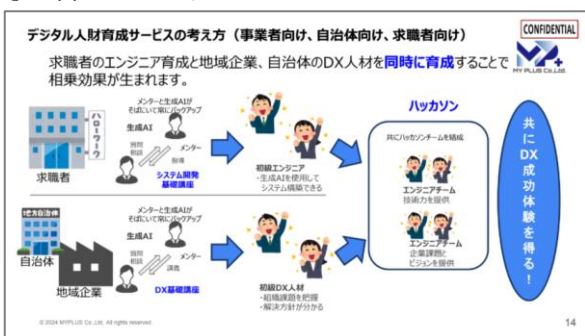


同社の教育サービスでは、こういった人財教育と共に、組織変革を進めるシード(タネ)も植えていく点が大きな特長になっている。たとえばハッカソンを実施し、実際に企業の課題解決に向けたプロトタイプシステムを構築してもらう。それが組織変革のベースになっていく。こういった企業ごとの課題解決に必要なスキルを個別最適化する形でチョイスし、その構築を徹底的にサポートしていく。最近、特に注目を浴びている生成AIを活用しながら、短期間で成果を出せる点も特長の一つだ。

point ② 事業者・自治体・求職者向けにハッカソン、学生向けにはマイコンによる教育

同社の具体的な教育サービスについては、事業者・自治体・求職者向けのコンテンツと、学生向けのコンテンツに大別される。

前者は地域企業・自治体と求職者を分けて同時並行的にDX人財を育てるという手法だ。求職者のほうは、生成AIとバンダーで支援しながらシステム開発の基本を学び、初級エンジニアになってもらう。一方、企業と自治体はDX基礎講座やフレームワークで組織の課題を把握し、解決策を想定できる初級DX人財を育成。この両者が協力してハッカソンで業務自動化などの課題を解いて成功体験を得る。単にセミナーを受動的に受けるのではなく、ハッカソンを通じて実践的な知識やスキルが身に着くわけだ。



一方、後者の学生向けコンテンツでは、ゼロからマイコンボードの「RaspberryPi」で実習し、ブラックボックス化しない「中身が見える教育」を重視。そのほかセミナーやワークショップ、首都圏の先端企業へのデジタル修学旅行なども実施する。そして最後は発表会を開き、実践力を付けてもらう。



マイプラス株式会社
執行役員
延岡地域DXセンター長
富重 聡氏

また、同社ではオンライン学習のコンテンツも充実している。

このように、延岡市など地域の各コミュニティやレイヤーごとに横ぐしを刺し、地元で活躍できるDX人財を同時に育成していくことで、企業の各部門で抱える課題を一挙に解決していこうとしている。同社では優秀なDX人財を輩出して、地域を強力に支援していく構えだ。

地域のデジタルトランスフォーメーションを推進。
宮崎県延岡市を拠点に地元企業や行政との連携を強化し、DXによる業務効率化や新規事業創出、人材育成など多角的な支援を行う。地方創生を目指し、持続可能な地域経済の活性化に貢献している。

問合せ先

一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(ODS)

info@ods.or.jp

※お問い合わせの際には「ウェビナー通信を見た」とお伝えください



ODS WEBサイト

単なるセミナーや講習ではない！
本当に力が付く全世代向けデジタル人財育成サービス